

➤ **メディカルスタッフセッション（公募・一部指定）**

**「胆道疾患に対する ERCP・EUS・PTBD 関連手技の周術期管理」**

司会： 中井 陽介 （東京大学光学診療部）  
丸尾 達 （福岡大学筑紫病院消化器内科）

ERCP・EUS・PTBD による胆道関連手技は他の内視鏡手技よりも偶発症が多いとされている。ERCP 関連手技では術後膵炎や EST 後出血など、EUS-FNA や EUS ガイド下胆道ドレナージ、PTBD 関連手技では術後出血やドレナージの自己抜去や逸脱など、早期偶発症だけでなく、後期偶発症の頻度も決して低くない。またバルーン内視鏡下 ERCP など長時間にわたる手技もあるが、適正な鎮静についても明らかにされていない。

2013 年改訂の「内視鏡看護記録実践ガイド」では ERCP、EST、EPBD の際の記載項目は例示されている。看護記録は安全管理の目的以外に、偶発症発生時の情報開示の際にも重要な証拠となるため非常に重要である。

本セッションでは、①ERCP・EUS・PTBD 手技における安全管理の取り組み、②適切な術中看護記録の記載と保存についての取り組み、③クリニカルパスを活用した患者マネジメントの標準化の試みなどの周術期管理だけでなく、放射線防護、内視鏡関連の感染対策や教訓的な症例まで、普段の診療において取り組んでいることをご発表いただき、高リスク手技である ERCP・EUS・PTBD 関連手技を安全に行い、術前・術中・術後の管理のポイントを共有することを目標としたい。